

## Article

**Density of tertiary lymphoid structures and their correlation with prognosis in non-small cell lung cancer.**

Xin S, Wen S, He P, et al. Front Immunol. 2024 Aug 13;15:1423775.

はじめに：Tertiary lymphoid structures(3次リンパ様構造以下TLS)は腫瘍免疫微小環境(tumor immune microenvironment, TIME)において、中心にCD20陽性B細胞のcolonyをCD3陽性T細胞が取り囲みさらに周囲にマクロファージや樹状細胞、間質細胞や高内皮血管から構成される組織であり、種々の癌で認められる。その出現数の多寡、出現部位が種々の癌の臨床病理学的特徴と関係するという多くの報告があるが、癌腫によってその特徴は異なっている。筆者は非小細胞肺癌におけるTLSについて詳細に検討した。

対象：82例の外科的に切除された非小細胞肺癌。患者背景は女/男：29/53、喫煙/非喫煙：31/51、腺癌/扁平上皮癌：59/23、TNM stage (I/II/III):45/20/17

方法：FFPE, whole sectionを用いてCD3, CD8, CD20, CD21, CD47, CD68の免疫組織化学を行った。

結語：TLSは非小細胞肺癌においても高率に認められた。しかし、領域による数の違いがあった。最も多く認められた領域はITであったが、臨床病理学的背景、特に予後と関連したのはIM領域のTLS数であり、E-TLS高値例は予後不良であった。これは腫瘍先進部における免疫担当細胞の増加によって引き起こされたTLS maturationの阻害のためであろう筆者は述べている。

## Take home message

- ・TIMEにおいてTLSは腫瘍の進展に重要な役割を果たしているが、その作用は領域により異なっている

(文責：柳川直樹)